平成３０年度　帝塚山学院中学校高等学校　学校評価

１．目指す学校像

建学の精神である「力の人」、そして「高い志」「豊かな感性」「他への思いやり」という３つの教育理念を踏まえ、主体的に未来を創る女性を育てる。

「自学主義」の伝統に則り、知識蓄積と知識活用を両輪に「対話的で深い学び」を軸とした、２１世紀型の学力を身につける授業を展開する。

２．中期的目標

5ヶ年計画（2016～2020）

１．教育力の強化

２．組織力の強化

３．財務力の強化

上記３点を目標に改革を進める。

１．教育力の強化

（１）生徒学力の向上

① 模試偏差値と大学入試結果向上を目指す。

② コース毎に必要とされる高い教育力・授業力を実現するため、教員研修を実施する。

③ 生徒の多様な希望に応じたきめ細かい進路指導を行う。

④ 生徒の基本的な生活習慣を確立する。

（２）学習環境の増強

① ICT を利用した個別の学習機会を拡大する。

（３）指導体制の充実

① エンロールメントマネジメントを実施し、成績等の生徒情報をビッグデータ化する。

② 進路分析会を実施し、模試成績による現状把握と教員間での目標共有を行う。

③ シラバス見直しを行い、コース・学年の資格取得や模試偏差値に目標を設定する。

２．組織力の強化

（１）ガバナンスの強化

① 予算編成を複数年化する。

（２）教職協働による組織風土の改革

① 入試に係るデータ分析の精度向上を目指す。

② 事務機能を強化し、教職協働を促進する。

（３）教育環境の整備

① 生徒数に対して適正な教室数を確保する。

３．財務力の強化

（１）募集強化による予算基盤の安定

① 中学での入試行事参加者を増やし、実出願率の上昇を目指す。

② 高校での入試行事参加者を維持し、専願者数の上昇を目指す。

自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見

自己評価アンケートの結果と分析	学校評価委員会からの意見
本校では「部署毎の年度総括」「保護者評価アンケート」」「生徒授業アンケート」の３種類の資料を元に自己判断を行っている。 （１）教育課程について 教育課程の適切な整備については、79%が肯定的な意見、進路指導体制については 71%が肯定的な意見を述べている。昨年比で減少となった項目を精査し、満足度の上昇を目指す。 （２）学習指導について 学力向上や学習内容の定着について、61%が肯定的な意見を述べている。生徒への授業満足度に関するアンケートを精査し、コース毎の対応を行う。 （３）進路指導について 進路指導の充実、進路情報の提供について、肯定的な意見は 67%であった。教育課程・学習指導を精査し、生徒の進路実現による満足度の向上を目指す。 （４）生徒指導について 生活指導の充実、人権教育の充実、差別やいじめの防止に関する肯定的な意見は昨年に引き続き 80%近くとなり、現行の指導を継続する。 （５）課外活動について 学校行事の充実に対する肯定的な意見は 78%、部活動と学習の両立は 74%に達している。今後は部活動ガイドラインを策定し、活動と休養のバランスを考えつつ、満足度を維持する。 （６）安全管理 登下校の安全や交通マナーへの指導は肯定的な意見が 82%を超えている。施設の安全性と衛生的な管理は肯定的な意見が 91%を超えており、昨年同様、保護者の高い満足を得た。 （７）情報発信 授業参観や PTA 行事の頻度は、90%近くが肯定的な意見を持っている。学校からの情報発信についても、80%以上が肯定的であり、時宜に応じた適切な発信だったと推測できる。 （８）その他 入学させてよかったとの意見は昨年に引き続き 80%を越えた。一方で、教員間の一貫した対応について、肯定的な意見は 64%であった。教育研究委員会などを通じて、指導の統一と質的向上を目指す。	＜自己評価に対して＞ （１）教育課程について ・新型入試の研究、アクティブラーニングなどを取り入れていて、教員の積極的な指導がうかがえます。 ・検定取得の補習や講習が充実すれば、学習指導面での保護者評価が上がると思います。 （２）学習指導について ・生徒学力の向上について、明確な目標設定で成果も上がり、年々学力レベルが高くなっていると思います。 ・アクティブラーニングの教育効果がまだまだ深く理解されていないことが満足度減少の理由ではないかと思いました。 （３）進路指導について ・進路指導方法やシラバスの内容を充実されていて、英検の目標を定めることにより生徒のやる気を導き出しています。 （４）生徒指導について ・SNS の一部解禁について、生徒会と自治会による自主的なルール策定は生徒の責任感と自立を促し、成長に寄与している。 ・志願者が増え、学校が注目されており、生徒は規範意識を持ち、家庭では基本的生活習慣の確立が必要と感じました。 （５）課外活動について ・座学だけでなく、行事やクラブ、その他の活動もあり、先生方にいろいろ相談できることがありがたいです。 （６）安全管理 ・子どもに何か起きたとき、担任だけでなく、クラブや他の先生方も情報共有され、連携がとれていることに安心します 。 （７）情報発信 ・近年はインターネットでの口コミを参考にする受験者が多いので、SNS 対策も更に必要かと思います。 （８）その他 ・伝統校であることはもちろん、校長先生が自ら学院の魅力を伝えるために学外の説明会に足を運ぶことも魅力と感じます。 ＜保護者による学校評価について（過年度比較）＞ ・進路指導の満足度が上がることを期待したいと思います。 ・保護者による学校評価は、全般的に横ばいのように見える。「そう思わない」保護者から意見を聞けばと思います。

３．本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み	評価指標	自己評価	課題と改善策
1（1）生徒学力の向上	①模試偏差値と大学入試結果向上を目指す。	①生徒一人一人の成績情報を把握し、中高６年間を見通した指導計画を策定する。	①エンロールメントマネジメント委員会による分析	①模試毎に分析会を実施し、成績について情報共有および分析を行った。高１の上位層は難関国公立合格ゾーンに達した。	①教科指導と模試成績の相関を検証し、シラバスの修正を行う。また、新学習指導要領を元にした新カリキュラム検討を開始する。
	②コース毎に必要とされる高い教育力・授業力を実現するため、教員研修を実施する。	②５教科は新型入試の研究、４教科はアクティブラーニング（以下 AL）の実践をマニュアル化する。昨年に引き続き AL 通信を発行し、授業実践を共有した。	②教育研究委員会による授業研究実践および保護者アンケート「学習指導」項目満足度 70%	②以下の４点を継続して実践したが、保護者アンケートの満足度は 61%となり、昨年より若干減少した。 1. 新型入試の研究 2. 中高６年間の５教科指導の体系化 3. AL 通信発行による授業実践の教科を越えた共有化 4. 「学びみらい PASS」による生徒特性の把握	②保護者アンケート満足度減少の理由を検証し、次年度での達成を目指す。また、模試結果と「学びみらい PASS」により AL の取り組みの有効性を検証し、多面的評価を行う際の客観的指標とする。
	③生徒の多様な希望に応じたきめ細かい進路指導を行う。	③国公立大学で広がりを見せる推薦入試・AO 入試の方式を研究する。また、英語４技能や e ポートフォリオについても調査する。	③ヴェルジェコース委員会と進路指導部による報告および保護者アンケート「進路指導」項目満足度 70%	③保護者アンケートの満足度は 71%となり、目標を達成した。進路ガイダンスの内容について保護者から一定の評価を得ている。	③進路指導への満足度をさらにコース・専攻毎に分けて分析する。また、担任や進路を通じた個別の情報提供についての満足度向上を目指す。
	④ルールの見直しと生徒の自律性・自主性を高める。	④1.社会常識から乖離した指導にならないよう校則の一部見直しを行う。 2.心理的要因の考察などを通じて、単なる説明や注意喚起で終わらない「いじめ対策」に取り組む。 3.生徒会・自治会を中心に生徒の自律性と自治意識を高める。 4.3 に関連して、生徒会・自治会の主導によって SNS 一部解禁の達成を目指す。	④生徒指導部の年間計画および保護者アンケート「生徒指導」項目満足度 80%	④以下４点を生徒指導部で実践した結果、保護者アンケート「生徒指導」項目は昨年に引き続き、ほぼ 80%を達成した。 1.行き過ぎていたり、根拠の薄いルールについては改廃を行った。 2. 外部講師および生徒指導部長による教員研修を行い、過去の事例を分析した。 3. 4.　SNS の使用方法について、生徒会・自治会による自主的なルール策定を促した。	④以下の４点を新たな課題として取り組み、保護者アンケートにおいて肯定的な意見が 80%を超えるよう努力する。 1. 校則の見直しおよび学校リュックの制定を進める。 2. 食堂利用率の向上を目指し、生徒とともにメニューの改善や食堂利用のあり方を考える。 3. 自治会・生徒会役員と教員が学校の問題について話し合うことで、生徒の精神的成長を図る。 4. 生徒間のいさかいを生み出しやすい環境がないかを再点検し、いじめの予防に努める。

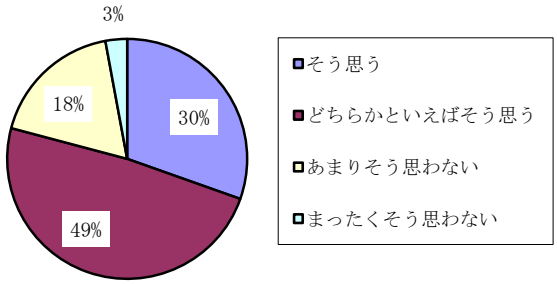
中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み	評価指標	自己評価	課題と改善策
1（2）学習環境の強化	①先進的な教育活動を研究し、ICT を利用した個別の学習機会を拡大する。	①AL を実践するためのハード面での環境作りとしてラーニングコモンズを完成させる。また、オールイングリッシュの環境としてグローバルラウンジを開設する。	①管理職と各部長で構成する学校運営会議での議論および保護者アンケート「安全管理」項目満足度 90%	①ICT および AL を推進するため、昨年度立案した本校に最適な施設・設備改修を行い、ラーニングコモンズを完成させた。保護者アンケートの満足度は昨年度と同程度の 91%となった。	①ラーニングコモンズを活用した AL の指導方法を確立し、教員間での共有を目指す。また、保護者アンケートの満足度 90%維持を目指す。
1（3）指導体制の充実	①エンロールマネジメントを実施し、成績等の生徒情報をビッグデータ化する。	①新型入試に向けて AL 型の設問に対応すべく、AO 入試を含む各大学の問題傾向分析および蓄積を推し進める。	①エンロールメントマネジメント委員会と教務部による分析および保護者アンケート「教育課程」項目満足度 80%	②新教務システムへ各部署からのデータ蓄積を開始し、生徒情報の一元化を進めた。保護者アンケートも満足度 84%となり、昨年度を上回った。	①蓄積された生徒情報データの分析および指導への活用方法を模索する。保護者アンケートの満足度 80%以上の維持を目指す。
	②進路分析会を実施し、模試成績による現状把握と教員間での目標共有を行う。	②模試分析会を継続し、成績状況を適宜把握すると同時に、その最適化を進める。	②エンロールメントマネジメメント委員会と進路指導部会による分析および保護者アンケート「進路指導」項目満足度 70%	②中高６年間を見越した分析会を行った。１・２学期に中１～中３と高１・高２の全体成績を共有した。高３については個別生徒の成績と志望大学を教科担当者で詳細に検討した。保護者アンケートは 71%だった。	②分析会の内容を各教科で共有し、新学習指導要領下での新カリキュラムの在り方を模索する。保護者アンケートについて肯定的な意見の割合をさらに上昇させる。
	③シラバス見直しを行い、コース・学年の資格取得や模試偏差値に目標を設定する。	③新型入試での英語４技能および外部検定導入に向けて、各学年で英検取得の目標を設定する。	③学校運営会議による検討および教務部と各教科会との協議および保護者アンケート「学習指導」項目満足度 70%	③エトワールクラスの教育課程を改定し、大学受験指導の充実を図った。新学習指導要領に即して、英検２級と準２級の取得目標学年を設定した。保護者アンケートの満足度は 61%だった。	③次期学習指導要領の研究を引き続き行い、新カリキュラムの原案を策定する。保護者アンケートについて肯定的な意見の割合をさらに上昇させる。
2（1）ガバナンスの強化	①クラス数および教員数に応じた組織力の強化を行う。	①生徒数の増加に伴い、学級や学年の業務をサポートする役職を新たに設定する。	①本部と管理職の協議	①中学と高校にそれぞれ学年主任会を統括する中学部長・高校部長を設置した。	①次年度以降、中高部長が学年主任会に参加し、学校運営会議への課題の吸い上げや、学年間のスムースな業務引継ぎを目指す。
2（2）教職協働による組織風土の改革	①データ分析の精度向上を目指す。	①web 出願システムと連動した入試行事アンケート集計プログラムの運用を開始する。	①入試広報部とアドミッションセンターによる協議	①web 出願システムの行事分析とアンケートの併用で分析精度は向上している。マークシートリーダーの導入は見送りとなった。	①マークシートリーダーを導入し、分析作業の迅速化と業務軽減の両立を目指す。
	②事務機能を強化し、教職協働を促進する。	②業務の実状に合わせて、事務局の再編成を模索する。	②教頭・本部。事務局による協議	②事務局内で各部に対する業務内容と担当者切り分けを一定程度行った。	②各部の業務量に対して適正な事務局の人員配置を行う。

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み	評価指標	自己評価	課題と改善策
2（3）教育環境の整備	①生徒数に対して適正な教室数を確保する。	①教室の適切な改築や配置換えを行う。	①管理職および学校運営会議による協議および保護者アンケート「安全管理」項目満足度90%	①生徒数増加により教室・設備の増設補充を行った。また、ラーニングコモンズを開設した。保護者アンケートの満足度は 91%となり、全項目で最も高い数字を示した。	①ラーニングコモンズの更なる充実など、生徒の利便性を考えた改装を計画する。保護者アンケートの満足度 90%維持を目指す。
3（1）募集強化による予算基盤の安定	①中学での入試行事参加者を増やし、実出願率の上昇を目指す。 ②高校での入試行事参加者を維持し、専願者数の上昇を目指す。	①接触者の数だけでなく、行事の質を担保することで満足度を高める。 ②中学訪問の回数と頻度を昨年から更に増やす。	①入試広報部とアドミッションセンターによる分析および保護者アンケート「その他」項目満足度 80% ②入試広報部とアドミッションセンターによる分析	①接触者に対する満足度をあげることに努め、昨年比で出願率が上昇した。「この学校に入学させて良かった」と回答した保護者は83%に至った。 ②送付する行事リーフレットの種類を増やした。また、各中学校に対する訪問の頻度を高めた。	①漸減する中学受験人口に対して、入学者数を確保するための施策を考える。入学満足度についてもさらなる向上を目指す。 ②公立にはない私学独自の教育をアピールすることで、高校入学者数の増加を目指す。

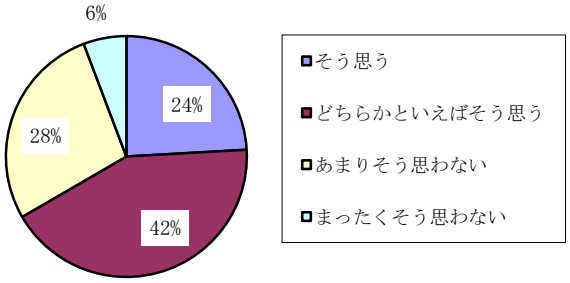
＜平成30年度　帝塚山学院中学校高等学校　保護者による学校評価アンケート結果＞(委員＋一般)

＜教育課程＞

質問１　様々な進路希望に対応できるように、教育課程（選択科目など）は適切に整備されている。

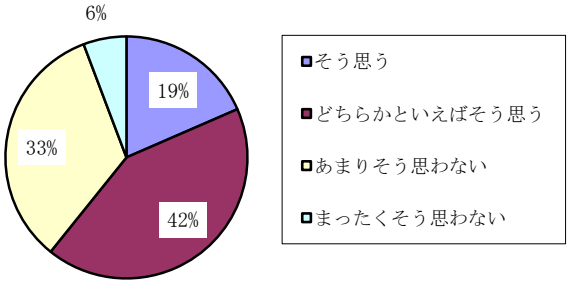


質問２　補習や講習は統合的に整備され、多様な進路希望に対応できる体制になっている。

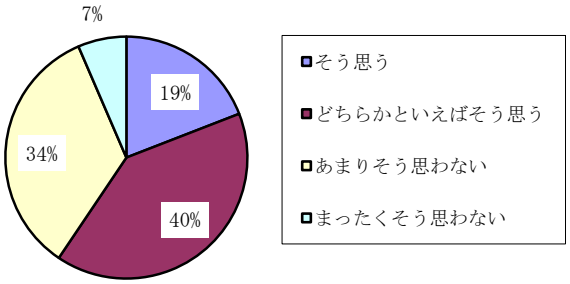


＜学習指導＞

質問３　学習指導は充実しており、学力向上に十分な成果を挙げている。

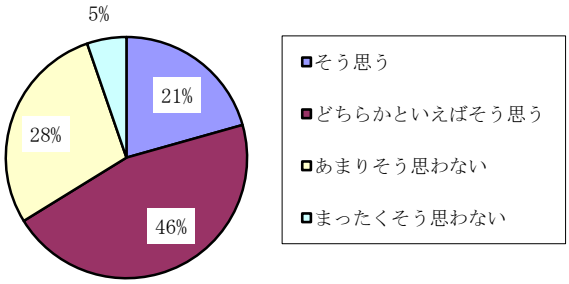


質問４　宿題や補習などを通じて、学習内容の定着を図る工夫がなされ、十分な効果を得ている。

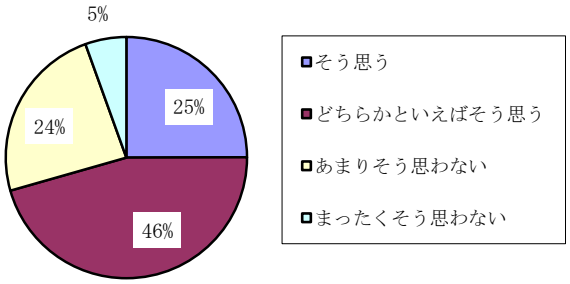


＜進路指導＞

質問５　進路指導が充実しており、生徒の希望進路の発見・実現に十分寄与している。

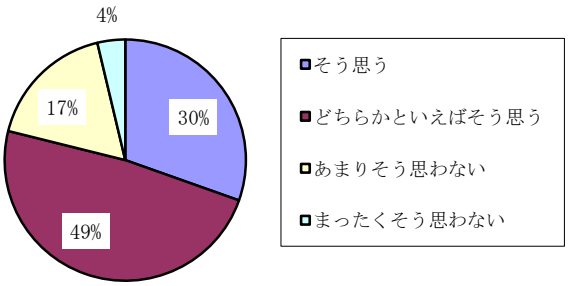


質問６　進学指導に必要な情報は、ガイダンスなどを通して保護者にも十分に提供されている。

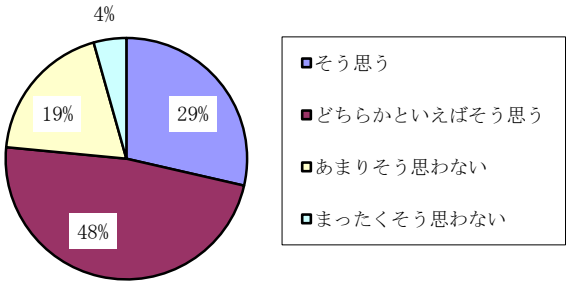


＜生徒指導＞

質問７　生徒指導は充実しており、規範意識と自律性の育成に十分寄与している。

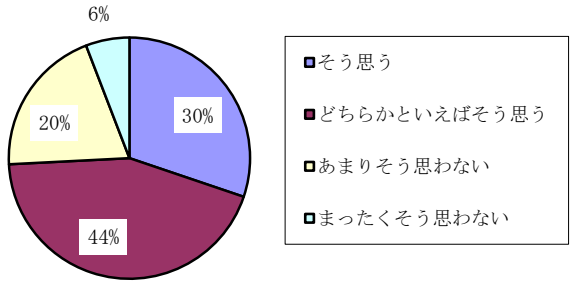


質問８　人権教育の充実がはかられ、差別やいじめの防止に十分な成果を挙げている。

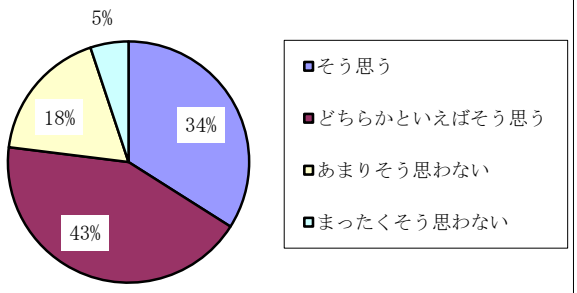


＜課外活動＞

質問９　部活動は学習との両立について配慮がなされているとともに、生徒に十分な指導が行われている。

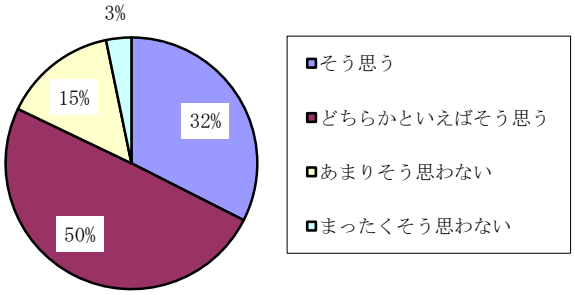


質問１０　学校行事は充実しており、生徒の自主性の育成に役立っている。

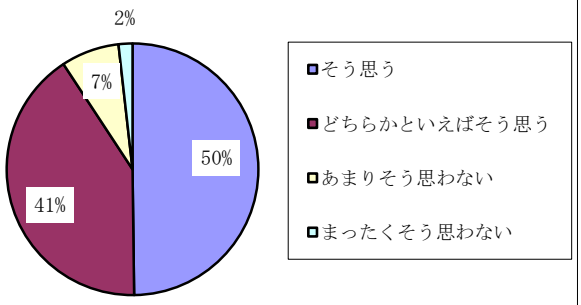


＜安全管理＞

質問１１　登下校の安全や交通マナーに関する指導が、十分なされている。

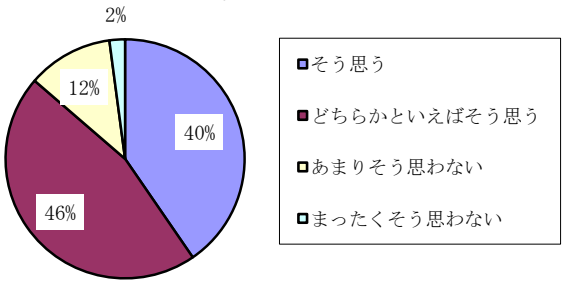


質問１２　施設・設備は安全かつ衛生的に管理・整備がなされている。

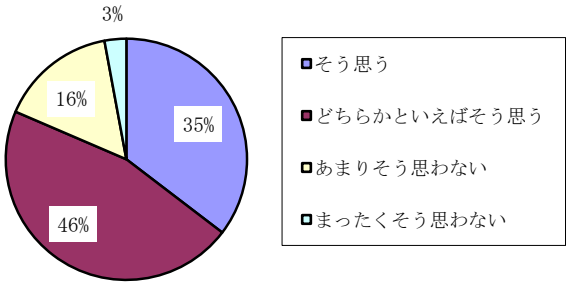


＜情報発信＞

質問１３　授業参観やＰＴＡ行事は適切な頻度で行われており、学校の様子をうかがい知る機会として機能している。

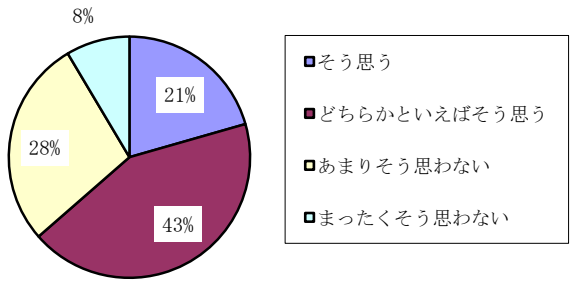
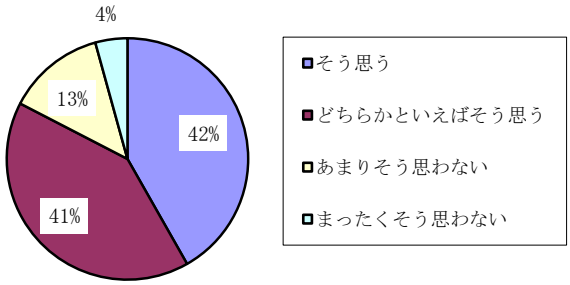


質問１４　学校からのお知らせ文書などを通じて、必要な情報を不足なく得ることができる。



＜その他＞

質問１５　教員はチームワークがとられており、どの教員に相談しても、一貫した対応が期待できる。



質問１６　この学校に入学させてよかった（知り合いや親戚にもこの学校を勧めたい）と思う。